

無料の「経営自己診断システム」利用をお勧めしたい

指方 順一郎

(独)中小企業基盤整備機構(<http://k-sindan.smrj.go.jp>)が WEB 上に「経営自己診断システム」を利用料無料・登録不要で提供している。このシステムは自社の主要な財務データを入力すると CRD 協会に蓄積されている中小企業の財務データと対比して、自社の財務分析、国内同業種中小企業の位置付け、及び 経営危険度の結果を表示してくれる。利用方法は

- (1) 決算書より 26 項目を入力すると総合診断結果として 5 項目 27 指標つまり 収益性(8)、効率性(3)、生産性(3)、安全性(10)、成長性(3 指標)について「自社の値」と「業界の値」をレーダチャート図等で直感的に観察できる様に比較表示してくれる。
- (2) 資金繰り診断結果として安全性項目 10 指標に注目し「自社の値」と「業界標準値」・「倒産企業値」と比較し経営危険度診断を行う。

本システムが実務的利用に耐えうるのか、どの様に役に立つのか試用した。参考文献の雑誌から例題を選んだ。その例題 A 社の表題は「増収増益という栄光の後に」で、題名の通り増収増益であった A 社が突然倒産した事実を対象とした。例題では支払能力を考察する為に運転資金の収支を算出し、結果的には資金繰りは苦しく支払能力も低く倒産に至っている訳である。但し、資金繰りが苦しく支払能力が低い状況は特に珍しいものではなく、それだけの理由で倒産するわけではないが A 社の問題点を 2 点指摘する。

- (1) 売上代金回収期間に着目すると、売上高が倍増にも拘わらず短縮して回収していた。
- (2) 製品・部品在庫期間は 2 期間で改善されているが、尚長いことを指摘でき、また仕入債務支払期間についても相当長く代金支払をかなり引き伸ばしている。

つまり 2 期分の貸借対照表から短期・長期借入金の減少を指摘でき、運転資金不足の資金需要を手形割引増加と預金取り崩しによっていることが見て取れるが、これは金融機関が受取手形割引のみによって資金供給し貸付金引き上げを図っていたと判断できる。

倒産に至る過程は債権回収と債務支払のバランスが崩れ少しずつボデーブローの様に表層化し、売上倍増の場合は更にその効き具合が大きくなり、しかも金融機関貸し剥がしが徐々に進行していることに気がつかないでいると、問題が積分的に蓄積され本文記載にある様に「経営者も従業員もこうした日の来ることを夢にすら考えていなかった。」という様に倒産が突然襲ってくる。そこで倒産期にできるだけ近い決算書に何か異常点をこの無料のシステムから見出し得ないかということを考えたい。経営自己診断システムに入力した結果、売上債権回転日数及び棚卸資産回転日数が業界標準値と比較して相当悪い得点で、安全性指標の固定長期適合率が高得点から急に落ちていることは金融機関からの長期借入金減少が顕著に表れていることを示している。

このシステムで自社の内情が全て分かるものではないが、2 期連続して比較してみた結果、短期レンジで例えば四半期毎にチェックしていると何か異常値を見出せるものと感じた。その異常値とはこのシステムが業界標準値、倒産企業値と比較してくれるので、特に数値が低得点のものを連続的に相対的チェックを試みるのが有用と思える。また取引先の与信管理も可能で、同機構もその様な使い方を推奨しているので継続的利用をお勧めしたい。本文には記載されていないが経営者は 2 年間の経営数値悪化は肌で感じていたはずである。その感じ方が「ゆで蛙」的であるから「夢にすら・・・」という文言で象徴されることになる。

雑誌：「挫折に学ぶ倒産会社の財務分析」(税務経理協会、平成 11 年発行、森脇彬著)